

I 事業の概要（地域の実情含む）

上野中学校区は、高台の閑静な住宅街に位置し、学区の北部に工業団地、西部に流通センター、南部に商店、教育・文化施設が建ち並ぶ商工業の盛んな地域に接しており、市外からの転入者も多い地域である。山や河川から離れているため自然災害については比較的 안전한地域である。また、地区の教育実践協議会を中心に「地域の一員としての自覚と地域への愛着」を育てる取り組みが行われ、児童生徒が地域の宝として大切にされている。このように安全な地域で大切に育てられている生徒の多くは、自然災害への備えや登下校時の安全の意識は決して高くない。また、本校は風水害時の第1次避難所に指定されているが、「市中心部からの避難者を受け入る」という意識も生徒・地域ともに高いとは言えない。

そこで、防災に対する基本的な知識や技能を身につけ、自ら判断して行動できる力を育てるとともに、地域の方々や小学生との活動を通じて「共助の気持ち」と「地域に貢献しようとする態度」を育てるために、体験的な活動による防災学習に取り組むこととした。

II 取組の概要

1 事前意識調査

防災に関わる生徒の意識を調査し、取り組み後の変化を確認するための参考資料とする。

問1	自然災害や防災についての新聞やニュースを興味・関心を持って読んでいますか。
ア	関心がある イ 少し関心がある ウ あまり関心がない エ 全く関心がない
問2	あなた(家族)が、今、自然災害に合うとしたら、どのような自然災害が考えられますか。あてはまるものを全て選びなさい。
ア	地震 イ 火山活動 ウ 津波 エ 洪水 オ 土砂崩れ カ 落雷 キ 竜巻 ク その他()
問3	家族の人と災害時の避難方法や連絡の取り方について話し合っていますか。
ア	話し合っている イ 話し合っているが覚えていない ウ 話し合っていない
問4	自分の住んでいるところの避難場所を知っていますか。
ア	知っている 避難場所は() イ 知らない
問5	自分の住んでいるところの危険箇所を知っていますか。
ア	知っており実際に見たことがある イ 知っているが見に行ったことはない ウ 知らない エ 危険箇所はない
問6	自分の住んでいるところのハザードマップを見たことはありますか。
ア	見たことがある イ ハザードマップがあることは知っているが見たことはない ウ ハザードマップがあることを知らないのを見たことはない
問7	家庭で緊急避難用具は準備されていますか。
ア	している イ していると思う ウ していないと思う エ していない
問8	家庭で緊急避難用具として、最低限必要なものはどのような物と考えられますか。
問9	今後、地域で行われている防災活動に参加したいと思いませんか。
ア	参加したい イ 参加するつもりはない ウ その時にならないと分からない
問10	もし、避難所に避難したとしたら、どのような立場で行動しますか。
ア	積極的にボランティア活動を行いたい イ 指示が出たら手伝いたい ウ みんなから助けてもらいたい エ 物に何もしない オ 分からない

2 防災学習①「防災リュックの中身を考えよう」

(1) ねらい

防災に関するグループワークトレーニングを行い、防災知識とコミュニケーション技能の向上を図る。

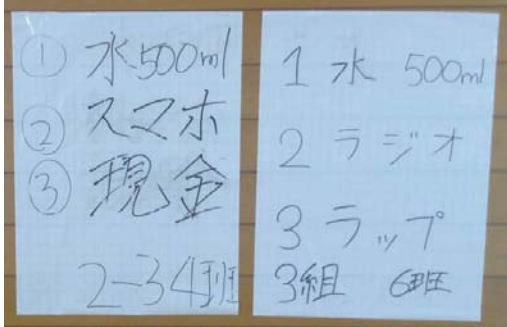
(2) 活動内容

2年生を対象に、防災士の宮古市立重茂中学校の佐々木匡人副校長先生を講師として「防災リュックの中身を考えよう」と題して避難する際に何を持っていくかを考えた。個人で考えた後、班で話し合って3つに絞り、全体で意見交換を行った。

(3) 活動の様子

水が大切であることはほとんどの生徒が理解していたが、防災士の視点では水の他に「ラジオと笛」が重要であることを教わった。スマホは便利であるが、通信障害やフェイクニュース等のデメリットも多いため、情報収集にはラジオが最適であり、助けを呼ぶときに体力を消耗せずに遠くまで届かせるには笛が有効であることに驚く生徒が多かった。





3 防災学習②「避難所運営ゲーム『HUG』」

(1) ねらい

避難所運営ゲーム『HUG』を行い、防災への意識と共に地域の担い手としての意識を高める。

(2) 活動内容

2年生を対象に、県地域防災サポーター防災専門員の塚本清孝先生を講師として避難所で起こる出来事を模擬体験した。

『HUG』とは、「避難所のH、運営のU、ゲームのGの頭文字で、英語の抱きしめるという意味から避難者をやさしく受け入れるイメージ」とのことで、様々な事情を抱えた避難者のカードを避難所の図面に配置していきながら、避難所で次々起こる出来事にどう対応するかを班で話し合っていた。

(3) 活動の様子

ルールが難しい上、次々と避難者や出来事が押し寄せて混乱し、状況の整理がままならず、現実であったら恐ろしいと感じた生徒が多かつ

た。また、班内での考えを共有できないまま進んでいき、実際に運営することの難しさや大変さを実感したようであった。この活動から自分たち中学生が手伝う側になって行動することの必要性を学んだ。さらに、講師の塚本先生から「世の中には様々な人がいて、自分の好みで拒絶するのではなく、人を『性善説』で捉え、どんな人でも受け入れようとするのが自分を大きく成長させること」を教えていただいた。



4 防災学習③「避難所運営体験学習」

(1) ねらい

- ・防災に対する基本的な知識や技能を身につけ、自ら判断して行動できる力を育てる。
- ・地域の方々や小学生との活動を通じ、中学生として地域に貢献しようとする態度を育てる。

(2) 活動内容

2年生を対象に、市の消防防災課や福祉課、消防署の職員の方々を講師とし、地域の方々や黒沢尻北小学校3年生にも参加して5つのコースに分かれて体験活動を行った。



(3) 活動の様子

①テントや仮設トイレ等の設営

設営は簡単であるが、片付けが難しかった。テントによって着替えやプライベートな空間を確保することができ、避難者のストレス軽減につながることを学んだ。



②救命救急法訓練

身近な物を活用して運んだり、手当てをしたりすることができることを学び、中学生にも手伝えることがあり、役に立つ喜びを感じた。



③キャップハンディ体験

車いすの方は段差や急な坂道では介助がないと通れず、目が不自由な方は状況が分からないので非常に不安で、特に下りの階段は介助があってもとても怖いと感じ、介助する側がとても大切であることを学んだ。



④備蓄米等の調理

お湯や水を入れるだけで簡単にできることに驚いた生徒が多かった。ただし、お湯を沸かしている間もただ待っているのではなく、できることを探して行動することが必要であることを学んだ。

⑤避難所の受付・避難者への対応

小学生に、けが人や病気の人の役をしてもらった。それぞれの状況に合わせて対応

する大変さや相手の気持ちにより添ったコミュニケーションが大切であることを学んだ。どの体験でも、中学生にも手伝える事がたくさんあることを知り、助ける側として障がいのある方や怪我をしている方の案内や介助、物資の運搬などの活動をしていきたいとの感想が多かった。



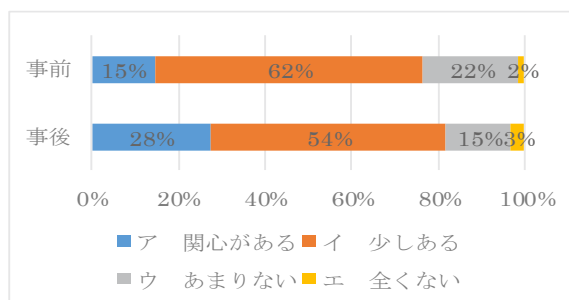
(4) 事後意識調査

①ねらい

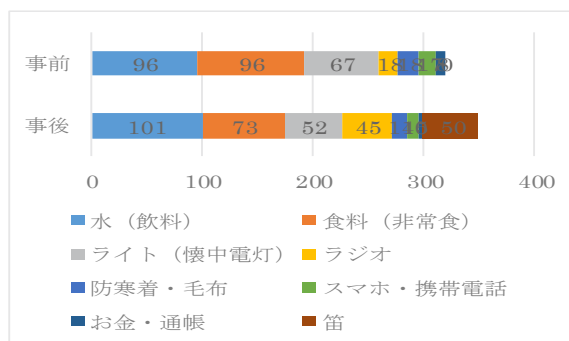
防災学習を通して、防災に関わる生徒の意識がどのように変化したかを確認するための参考資料とする。

②調査結果 (抜粋)

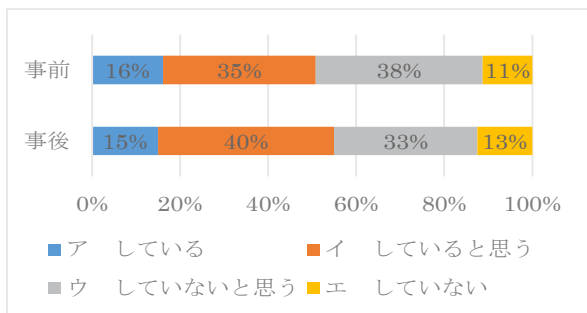
(ア) 災害や防災のニュースへの興味・関心



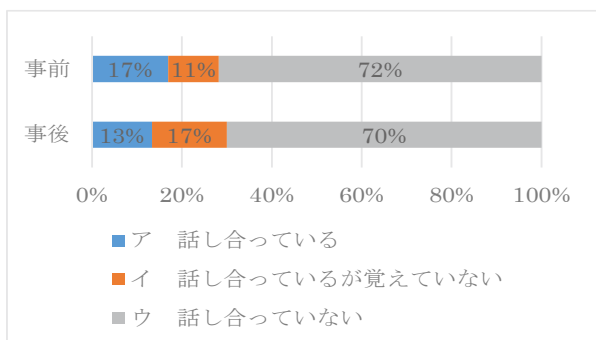
(イ) 緊急避難用具として最低限必要な物



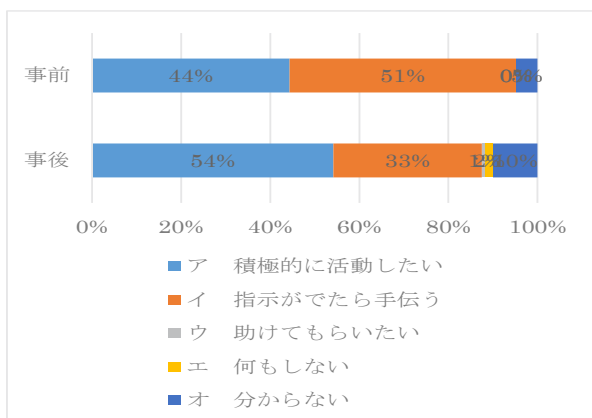
(ウ) 家庭での緊急避難用具の準備



(エ) 家族との避難方法などの話し合い



(オ) 避難所での行動



③意識変化の様子

- (ア) 災害や防災へのニュースに「関心がある」生徒の割合が増えており、防災学習を通して意識が高まっていると考えられる。
- (イ) 避難所に最低限必要な物についても防災学習が生かされ、「ラジオ」と「笛」が大幅に増え、「スマホ」は減った。その他にもラップや薬、ウェットティッシュ、タオルなどの意見もあった。
- (ウ) 避難用具の準備と避難方法の話し合いについては大きな変化や改善が見られなかった。これらから、一人一人の学びが家族への伝達や災害に備えた行動につながっていないという大きな課題が明らかとなった。特に、本校の学区は被災の

危険性が少ないため、地域全体として防災への意識が高くないことも影響していると考えられる。

- (エ) 避難所での行動については、「積極的に活動したい」という割合が増えた一方で、「分からない」や「何もしない」という割合も増えた。これは、防災学習を通して大変さや重要性を学んだことで「気軽に手伝う」とは言えないと慎重に考える生徒が出てきた結果と思われ、決してマイナスの回答ではないと考えられる。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 防災に対する知識と意識が高まり、地域に貢献しようとする共助の気持ちが育った。
- (2) 「助けられる立場」ではなく、「助ける立場」となればならないという自覚が芽生えるとともに、その前提として「自律」が必要であり、普段の生活を見直して生活向上の取り組みへの意欲が高まった。
- (3) 沿岸部の中学生に比べ、全体的に防災意識が低い事への危機感が芽生え、生徒会活動の中で防災意識を高める活動が企画・実施された。

ア 小学校付近での登校あいさつ運動



イ 2学期総括集会での防災クイズ



ウ 学級対抗「防災クラスマッチ」

2 課題

- (1) 今回の取り組みを年間計画に位置づけ、学校全体のものとし、継続していく必要がある。
- (2) 生徒だけでなく、家庭や地域全体で防災意識を高める取り組みを検討していく。